



一生懸命 In 一期一会

《学校教育目標》

「志を持ち 道を拓く生徒」

7. 10 (金)

文責：担当 川崎幸司

期末テスト・到達度検査が 終わりましたが、夏休みは 絶好の自分磨き(学習)の チャンスです… 3年生は勝負の夏です！！

期末テストが終わりましたが、反省を次に生かせるような取り組みを重ねられるようにしていきたいものです。

1年生にとっては中学校で初めての定期テストを2度、高校入試に直結する到達度検査も経験しました。不安や緊張はほぐれてきたでしょうか。結果が良いに越したことはありませんが、結果だけをみて一喜一憂するのではなく、授業の様子から家庭学習など、テストに向けての取り組み過程を振り返ったうえで、その評価をすることが大切です。その意味ではテスト勉強とは、困難や課題に対して計画的に努力し克服するという過程をロールプレイしているものと捉えることもできるでしょう。すなわち、

- ① 計画(plan) ≡ 目標設定・学習の取組表、
 - ② 実行(do) ≡ 実際の学習の取り組み、
 - ③ 評価(check) ≡ 答合せ・各種テスト、
 - ④ 改善(act) ≡ 次の計画のための反省
- ①②③④①②③④・・・

のプロセスを順に実施し、最後のactではcheckの結果から、最初のplanの内容を見直したり修正したりし、次のplanに結び付ける。

この螺旋(らせん)のプロセスを繰り返すPDCAサイクルの考え方は今のうちから身につけておきたいものです。

なかでも、目標の立て方は重要です。「人のやる気は自分の要求水準を満たすかどうかで左右される」という、心理学者の言葉にあるように、意欲が最も沸くのは「ちょっと難しい」と思えるレベルに目標を設定したとき、一所懸命やれば「成功しそうだ」と思えるときにやる気は出てくるものです。

また、テストそのものの振り返りも重要です。

- ・ 解答を導き出すことができなかった問題、
- ・ 解き方を間違えてしまった問題、
- ・ そもそも解答するために必要な知識・技術そのものを身につけていなかった

等、結果的に「できなかった」という点では同じであっても、その内容には大きな違いがあります。この点はしっかり見極める必要があります。

大雑把に言えば、記憶とは「銘記(めいき)」「保持(ほじ)」「想起(そうき)」の三段階の脳の活動ということになります。つまり、記憶することの最終目標は「想起する(思い出す)」ことなのです。

特に中学生の年代は「論理立てて覚える」能力が発達していく時期であり、個人的な資質の違いはあれども、適切な方法で努力や工夫をすることで、記憶力は育てられるものなのです。

そこで意識しておきたいことが「人間とは忘れる生き物」であるということ。人は学習した記憶を1時間後には56%、1日後には74%忘れてしまうという実験結果があります。3日経てば大概のことは忘れてしまうのです。ところが、友達の名前や九九、自転車の乗り方などはそう簡単に忘れることはありません。それは、繰り返しの中で身についた「長期記憶」になっているからです。

人間の脳は、繰り返しインプットされた情報は、重要な情報として忘れにくい記憶として保存するようになっているのだそうです(この作業は睡眠時に行われるそうで、良質な睡眠も学習には必要不可欠なのです)。復習(習慣化された家庭学習)が大事だというのは、このような脳のメカニズムから考えても理にかなった考えなのです。

そして、学習の中で友達と学びあうこと(想起)も理解を深めるうえで重要な手段だと言えます。自分の中で十分に理解していないと、教えることはできません。[学び合い]の中で、自分の理解度を計ることができるわけです。学習会などで積極的に[学び合い]

しましょう。到達度テスト以降も、誰もが納得のいく取り組みができるように頑張ってください。

